

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	いつでも、どこでも高齢者緊急通報“安心”システムの構築		
団体名	天沼尚和会 (昭和 23 年 4 月設立)		
活動費	375,375 円	助成金額	375,375 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	100,000		
	活動収入			
	その他の収入			
	長寿応援ファンド助成	676,000	375,375	
計	776,000	375,375		

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	報償費	189,000	189,000	デザイナー式@84,000 入力一式@21,000 イラスト一式@52,500 コピー制作@31,500
	消耗品費			
	印刷費	99,000	99,225	ポスター印刷費@29,400×1回 = 29,400円 A4チラシ印刷費@14,700×1回 = 14,700円 パンフレット印刷費@55,125×1回 = 55,125円
	通信運搬費			
	使用料・賃借料			
	備品費			
	その他の経費	4,488,000	87,150	標準充電器及び加入料金@7,350×9個 = 66,150 ホームページ更新作業@21,000
	計	4,776,000	375,375	

活動名:	いつでも、どこでも高齢者緊急通報“安心”システムの構築
------	-----------------------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	<p>高齢者の孤立死を防ぐ緊急通報サービスの構築/孤立死を防ぐための町会の協力員と警備会社によるネットワークシステムの構築が目的。天沼尚和会の地域内でも、ここ何年か続けて孤立死が出ている。孤立死をいかに軽減していくのかは町会に於いても大きな問題である。東京都では1世帯当たりの人数が1,99人になり今後、ますます高齢化が進み1人住まいが多くなると予想される。特に区部では1,91人その減少率著しいものがある。こうした環境の中で孤立死をどう防いでいくのか、町会としてどう対処していくのか、地域の連帯の在り方を含め今、問われている。孤立死を防止する施策は幾つか採られているが、幾層にもネットワークを張ることで連帯感が生まれさらに地域の力を強める事ができる。孤立死を軽減することを目的とした町会活動の申請。</p>
計画内容	<p>高齢者見まもり緊急通報サービスのしくみ  <b>①登録者②セコム(24時間体制×365日)③町会協力員の3者による緊急通報サービスシステム</b>  <b>役割と通報サービスの流れ</b>          ・登録者はココセコム(月額使用料金945円)を携帯する。体調に異変があったときは通報ボタンを押す。          ・セコムは通報を受信。          (セコムは通信機器(通信機5,250円と充電器2,100円)の販売と)          ・セコムは受信後登録者宅に急行。同時に町会協力員に通報。状況に応じて救急車を要請。          ・町会協力員(民生委員を含む)は包括支援センター等に連絡  <b>実施時期:</b>4月からポスター、リーフレット、チラシ等の制作に入り概ね7月から翌年3月まで随時募集を始める。  <b>場所:</b>天沼尚和会の地域を主に近隣町会にも紹介する。  <b>対象者:</b>天沼尚和会では昨年度から80才以上の方の名簿を作り始めています。現在130名を越す方の登録があり当面はこの方々をメインに募集をします。  <b>募集方法:</b>町会の回覧板、町会の世話人(町会役員)の口コミ、町会の掲示板のポスター、天沼尚和会のFacebookへ掲載、天沼8町会のホームページに掲載</p>

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	4月 システム打ち合わせ(セコム、町会世話人会) 5月 ポスター、チラシ、パンフレット制作、天沼尚和会総会で説明 6月 町会協力員募集開始 7月 ポスター、チラシ配布 町会協力員募集 8月 高齢者公募開始 応募者個別にシステム運用説明 運用開始 9月 戸別訪問、町会世話人会、班長による敬老の日訪問でシステム説明 10月 チラシ配布、臨時募集 11月 臨時募集 12月 臨時募集 1月 チラシ配布 臨時募集 2月 臨時募集 3月 募集締め切り	6月 セコム打ち合わせ 7月 ポスター、チラシ打ち合わせ 8月 町会説明会約30名参加 9月 敬老の日訪問でシステム説明 ポスター掲示 チラシ配布 10月 天沼地区町会連合会に紹介 天沼8HPIに掲載 みよし会でポスターチラシ配布 回覧板でパンフレット配布 回覧板で周知(チラシ) ポスター掲示 杉町連常任理事会で紹介 12月 回覧板で周知(チラシ) 1月 回覧板でパンフレット配布 2月 回覧板でパンフレット配布 3月 回覧板でパンフレット配布

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>・孤立死の軽減・地域のネットワーク作り・震災救援所にも利用可能(要援護者の独居高齢者支援等)・名簿作成で祭事などに高齢者へのアプローチに利用・隣近所の意識を高める(見守りなど)認知症の方にも対応・町会として連帯感の高まり</p>	<p>少人数ではあるが協力員の説明で加入された高齢者がいる。近隣の住民の助け合いや見守りの成果だと考えている。            約半年以上に涉りチラシやパンフレットで周知をしたので他のシステムや区の緊急通報システムに加入された方もいる。この周知が少しでも緊急時の対応の契機になると確信している。            この“安心システム”は大船戸市の“緊急通報サービス”をモデルに考案した経過があり大船渡市の初期加入者が8名でした。このため尚和会の加入者も10名前後を見込み初期の目標は達成できたと考えている。</p>

活動名:	いつでも、どこでも高齢者緊急通報“安心”システムの構築
------	-----------------------------

## 5 自己評価

目的	<b>問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input checked="" type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<b>問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	<b>問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input checked="" type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し ・1人住まいの高齢者にはシステムが解りづらい所があった。簡易的なものでないと受け入れが難しい。 ・現場派遣員の出勤に料金が派生するののも一つの課題。無料なら加入したいと言う声もあった。 ・GPSの機能がありながら、災害時の対応をPRができなかった。3/11の通報システムの不通で今後もセコムでは災害時には責任が取れないとのこと。 ・災害・震災時の通報システムとして機能するためには1町会では対応が難しい。このシステムに関わらず災害時の緊急システムの構築を願っている。 ・平成25年2月8日の新聞のニュースにもあるように独居死は後を絶たない。特に1人暮らしの高齢者は突然にくる緊急時の対応を日頃から考える必要が有る。今後、町会としても機会があれば通報システムの効用を周知していく。
	<b>問4 申請時の収支見込は適切でしたか。</b>
<input type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input checked="" type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった	
効果・成果	<b>問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。</b>
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<b>問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	<b>問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。</b>
	高齢者の孤立死の軽減を目標にしている、そのことが社会貢献だと考える。町会内の孤立死の問題定義ができた。ポスターやチラシの配布で町会の活動が周知できた。その結果多少ではあるが近隣の共助の具体的な行動も看られた。今後高齢者の見守りの必要制は大きくなると思われるがそのための一石を投じたと思う。
	<b>問8 どのような実施効果がありましたか。</b>
	加入者がこのシステムを利用して通報して事例は今のところ報告は無い。2月8日の新聞に杉並区の孤立死された姉妹のニュースが報道されていたが、少なくともこのシステムに加入された方は万全を期して欲しい。
	<b>問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点がありますか。</b>
	ファンド助成金の制度がなければ今回の活動は成立しなかった。一町会で“安心システム”の活動費を賄うことができない。このファンドを活用して今回の計画が実行されたことは町会が高齢者の見守りをしている事を町会内に周知できた。少人数ではあるが近隣の高齢者に対する意識に変化が見られた。
<b>問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。</b>	
加入者の声：・熱中症を経験して、遠出が不安だったが、不安感が軽減した。 ・杉並区に来て1年半、あまり知り合いがいなくて安心できる。 ・送信機を持っていると安心できる ・半年前に骨折したが、緊急の時に自分で通報できる。 ・北海道に母親を1人で旅行に行かせることができた。 ・東京都と地方の二重生活が安心して行き来できる。	
その他	<b>問11 自由意見</b>
	・ファンドの助成金で町会の活動の幅が広がる。地域の活性化に有効に利用できる。 ・安心システムはセコムとタクシー会社とディサービスと町会の4者の合意がないと成り立たないので4～5ヶ月の調整期間(町会の説明期間を含め)の必要があり5月末の助成金認可からシステム構築期間を得て実働開始が10月初旬になった。現状の助成金制度では案件を前倒しで計画することができないために短期間の計画と実行が余儀なくされる。事業計画のスケジュールを長く取り深く掘り下げる(デリケートな活動なので)ことを考える必要があると感じた。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	「知ろう!話そう!行動しよう!すぎなみの若者100人の輪」		
団体名	おむすび会 (平成 23 年 12 月設立)		
活動費	431,404 円	助成金額	436,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	0	0	
	活動収入	0	0	
	その他の収入	0	0	
	長寿応援ファンド助成	436,500	431,404	残金4,596円
	計	436,500	431,404	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	165,000	120,000	10,000円×6人 = 60,000円 5,000円×12人 = 60,000円
	消耗品費	9,200	104,819	ホワイトボード、マーカー、模造紙など事務用品 104,819円
	印刷費	207,500	166,210	コピー、インク、用紙代、広報誌制作代 166,210円
	通信運搬費			
	使用料・賃借料	24,800	16,375	研修会場使用料 16,375円
	備品費			
	その他の経費	30,000	24,000	交通費2,000円×6人 = 12,000円 1,000円×12人12,000円
	計	436,500	431,404	

活動名: 「知ろう!話そう!行動しよう!すぎなみの若者100人の輪」

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	地域活動に参加する若者が少ない現状がある。若者に対し、地域で活動している個人・団体と出会う場を提供し、地域の魅力を伝え、語り合う場を通じて、地域のために活動する若者を育成支援することを目的とする。
計画内容	<テーマを設けた研修・講習会の実施>地域活動している個人・団体を講師に招き、勉強会を開催。<おむすび会の実施>: 地域活動についての情報共有や団体紹介を目的とした交流会の実施。<おむすびフェス>若者主催の交流フェスの実施。<広報誌の作成・配布>若者が地域活動に関心を持てるようなツールブックの作成。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	4月 第1回おむすび会(交流会) 5月 ミーティング兼研修会「民生委員と話そう」 6月 第2回おむすび会(交流会) 7月 ミーティング兼研修会「地域防災を学ぼう」 広報誌作成 8月 第3回おむすび会(交流会) 9月 ミーティング兼研修会「地域で暮らす障害者と会おう」 10月 おむすびフェス 11月 ミーティング兼研修会 12月 すぎなみ地域福祉フォーラム 1月 第4回おむすび会(交流会) 2月 ミーティング兼研修会 3月 ミーティング兼研修会 広報誌作成	<6月 第1回おむすび会> [会場]高井戸[参加者]15名 <7月 第1回研修会「ダーツ×地域」> [会場]高井戸[参加者]12名 <11月 第2回おむすび会> 地域福祉フォーラム [会場]西荻窪[参加者]20名 <12月 第2回研修会「銭湯×地域」> [会場]新高円寺 NPOフェス[参加者]9名 <1月 第3回おむすび会> [会場]永福町[参加者]8名 <同日 第3回研修会「商店街×地域」> [会場]同上[参加者]12名 <2月 第4回研修会「ダーツ×地域」> [会場]阿佐ヶ谷[参加者]31名 <3月 第5回研修会「居場所×地域」> [会場]高円寺[参加者]9名 <3月 第4回おむすび会> [会場]阿佐ヶ谷[参加者]11名

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活動する若者が育つ。</li> <li>・地域活動をしている団体へ若者の参加者が増える。</li> <li>・交流する場を設けることにより、若者が地域活動を知り、活動をしている人と出会うことが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の会場を利用し、地域で活動している人を講師に招き、地域活動を広く学ぶ研修会を開催したことにより、地域で活動する若者が育った。延べ参加者人数は64名、そのうち9名はリピーター(2回以上参加)している。地域に関心を持ち、主体的に参加する若者の育成を支援する機会となった。</li> <li>・地域活動をしている団体へ若者の参加者が増えた。今まで若者と関わりのなかった団体と若者が交流する機会となった。今後もつながりのできた団体と協同し、活動に継続的に参加する若者を創出していく。</li> <li>・交流する場を設けることにより、若者が地域活動を知り、活動をしている人と出会うことが出来た。多様な地域活動とそのあり方を学んだことにより、若者が地域との関わり方を学んだ。</li> <li>・若者が自分の人生のモデルと出来るような、多様な大人に出会うことができず地域活動をされている人や、高齢者も参加していただいたため、多層世代の交流もできた。講師陣との出会い、若者が今後地域活動していくフィールドを新に創出することができた。</li> </ul>

活動名: 「知ろう!話そう!行動しよう!すぎなみの若者100人の輪」

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <small>「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し、地域で活動する若者が少ない現状の中、本会は、若者に対し、地域活動や活動に携わる人の魅力を伝え、若者の地域活動への関心を高め、参加を促した点が特色である。</small>
効果・成果	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	<small>長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。</small> <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	<small>・地域と接点のなかった若者が、多様な地域活動を知り、活動をしている人と出会い、地域との関わり方を学んだ点。          ・地域活動者との出会いをきっかけとして、若者の関心がより深まり、地域で活動したいと思える若者を育成できた点。</small>
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	<small>・若者の地域活動への関心を高め、その参加を促した。          ・地域活動をしている団体へ若者の参加者が増えた。          ・若者が人生の手本とできるような多様な大人に出会う場とすることができた。</small>
その他	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	<small>・ファンド助成金を受けたことにより、会の運営をする上での土台作りをすることが出来た。          ・ファンド助成金を受けた他団体の活動から、学ぶことが多かった。</small>
	問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。
	<small>【参加者の声】          ・研修会に参加して、まちづくりを身近に感じる事が出来た。          ・講師から地域活動を学ぶだけでなく、講師自身の魅力が伝わり、人生の勉強になった。          ・商店街の活動が思っていたよりも範囲が広く、地域に貢献していることを知った。          ・ダーツというツールを用いて、世代や障害を越えた交流ができた。</small>
	問11 自由意見
	<small>・ファンド助成金を受けたことで、土台作りをしっかりとさせてもらった1年間だった。平成25年度以降は参加者から出た「足裏マッサージ隊(ふれあい入浴時での若者によるマッサージ)」や商店街×地域で出た「商店教室(商店の専門家に専門技術を親子・若者などが教わる場)」などのアイデアを、つながりのできた団体との協働事業として行なっていきたい。</small>

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	子育て世代、祖父母世代の世代間交流・子育て共同参画事業		
団体名	creo(くれお) (平成 21 年 7 月設立)		
活動費	654,229 円	助成金額	561,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	80,000	15,729	
	活動収入	82,500	77,500	参加費500円
	その他の収入	5,000	0	
	長寿応援ファンド助成	561,900	561,000	
	計	729,400	654,229	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	270,000	235,000	4人
	消耗品費	8,000	10,113	紙、インク、封筒代
	印刷費	200,000	203,540	チラシA4両面C3万部、イベント配布用400枚
	通信運搬費	24,000	14,460	チラシ運搬宅配便 9,090円 郵送料 120×43通 = 5,160円 90円×1通 = 90円
	使用料・賃借料	12,000	9,225	産業商工会館(3回目) 3会場
	備品費			
	その他の経費	215,400	181,891	託児費、有償ボランティア費、行事保険、広報PR、図書資料代
	計	729,400	654,229	

活動名:	子育て世代、祖父母世代の世代間交流・子育て共同参画事業
------	-----------------------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	子育て世代を対象に活動を続ける中で、祖父母世代との関係に悩む声に多くふれてきた。同時に、子育て支援関係者からも「実母と実娘のトラブルが多い」といった声も。一方、団体設立2年で、育児や家事に関心のある男性「イクメン」が増加。加えて、子育てや地域活動に熱心な「イクジイ」の活躍にも期待が高まっている。そこで、各分野の専門家を招き、「子育てへの共同参画」をキーワードに、これからの地域のあり方、つ
計画内容	祖父母世代が孫育ての悩みを話したり、最近の子育て事情について学んだり、疑問を解消したりする場はない。そこで、子育て・孫育て、父親・祖父支援、女性学のパイオニアで介護にも造詣の深い各専門家の講座を企画。異世代間交流の場としても活用。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	<p>&lt; 講座1 &gt; 「がんばりすぎない子育て・孫育て」            日程:平成24年9月 講師: 榎田明子(NPO法人孫育て・ニッポン代表、'祖父母に孫を預ける賢い100の方法'著者)</p> <p>&lt; 講座2 &gt; 「イクメン・イクジイのチカラ」            日程:同年10月 講師: 村上誠(NPO法人ファザーリング・ジャパン・イクジイプロジェクトリーダー)</p> <p>&lt; 講座3 &gt; 「地域共生～子育て・介護」 「イクメン」が未来を拓く            日程:同年11月            講師: 上野千鶴子(東京大学名誉教授)、安藤哲也(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表)、井出隆安(杉並区教育長)</p> <p>全3回とも会場: あんさんぶる荻窪 対象者: 子育て世代、祖父母世代、子育て支援者</p>	<p>&lt; 講座1 &gt; 「がんばりすぎない子育て・孫育て」            日時:平成25年1月19日(土)10時～正午 会場: 細田工務店杉並リボン館 講師: 榎田明子(同左) 参加者: 34人</p> <p>&lt; 講座2 &gt; 「イクメン・イクジイのチカラ」            日程:平成25年1月26日(土)10時～正午 会場: 細田工務店杉並リボン館 講師: 村上誠(同左) 参加者: 25人</p> <p>&lt; 講座3 &gt; 鼎談「地域共生～どうする? これからの子育て・教育・介護」            日程:平成25年2月2日(土)10時～正午 会場: 産業商工会館 講師: 上野千鶴子(社会学者)、安藤哲也(NPO法人ファザーリング・ジャパンファウンダー)、井出隆安(同左) 参加者: 96人</p> <p>全3回のタイトル: 子育て・孫育て講座「地域でイキる」を考える、とした。対象者は同左。</p>

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	1)なぜ今、地域の“子育て”共同が必要とされるか、理解促進に役立ててもらおう 2)異世代間交流のきっかけを提供し、地域のつながりを強化 3)子供の育ちに必要な「人とのかわり」を大人が積極的に構築 4)子育てから介護まで、教育、福祉(子育てと介護)に何が必要かを知る機会 5)今回のつながりがさらに広がり、次のテーマ「地域防災」の基盤を形成	1)3)今と昔の違いや、現代の子育てが大変な理由など、専門家の講演に納得の参加者多数。「説得力のある内容」「今の子どもたちの置かれた状況が分かり、気を付けて接したい」(祖母世代)、「孫育てでお世話になっている義父母への感謝の気持ちが増した」(子育て世代)などの感想をいただいた。 2)< 講座1、2 > では、グループディスカッションの時間を設定。各世代が率直に考えを述べ合い、異世代間交流につながった。「地域でこれからやってみたいこと」がテーマの懇談では、「自ら地域の子どもたちに声をかけたい」「夫と地域デビューについて話したい」「同世代の引きこもりを何とかしたい」(いずれも祖父母世代)といった意見が出た。 4)5)3回目の鼎談はひとときわ盛況。講師の上野氏が「加入脱退が自由で、強制力がなく、包括的コミットメントを要求しない」選択縁を提唱。自らの選択で、志ある仲間とつながることが、これからの人口減社会を生きるヒントに、「充実した内容」「有意義だった」という感想多数。定期開催を望む声も。同時に行った「防災アンケート」で、子育て・孫育てに焦点を当てた防災講座の希望多数。



活動名:	子育て世代、祖父母世代の世代間交流・子育て共同参画事業
------	-----------------------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し全国紙に大きく取り上げられた影響もあり、全3回とも盛況。子育て世代をはじめ、熱心な祖父母世代が多く参加くださった。特に3回目の鼎談は、注目度が高かった。「子育て・教育・介護」というテーマから、男女比半々、幅広い世代が集ったのが特徴。知識豊富な専門家の生の声を身近で聞ける機会に、「お三方の組み合わせがすばらしかった」、「魅力的な講師のアレンジに感謝」など同様の声を多数いただいた。
	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	1週間ごと、連続3回の日程ながら、全回とも参加くださった方が複数いらっしゃった。新規分野であったが、テーマ性とターゲットはぴったり。継続開催希望の声を多数いただいたほか、自治体や民間からの賛同も得られた。
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	近年、子育ての貴重な戦力として期待され、その数は増加。しかしながら、子育ての不安や疑問を解消したりする場がないため、課題解決の一助になったと考える。同時に、子育て・子育て世代双方がお互いの意見を述べ合い、考えを知る好機になった。
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	<講座1・2>は、「子育て・子育て」の実情を知る実用編、<講座3>の鼎談ではテーマを広げ、社会学者、教育リーダー、父親支援の第一人者が実践と理論を交えディスカッション。参加形態は、単発、連続、いずれも自由選択できるように設定。参加者のニーズに合わせた段階的な企画として展開できた。特に<講座3>は、アンケートの結果から、より考察が深まり、新たな気づきを得られたようだ。
問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点がありますか。	
これまでの事業対象は主に子育て世代で、子育て世代へのアプローチは初の試み。そのため、当該者の所管である貴課からの助成は支えになった。具体的には、広報PR手段や、著名人講師への謝礼予算などの面で助かった。	
問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。	
アンケートより抜粋： <講座1>・初めての、そして遅めの孫なので、体力的には難しいですが、その他のことで孫に関わる方法を考えたいです。 <講座2>・1回じゃもったいない。・非常に説得力がある内容で有意義でした。立派な「イクバア」になりたいです。 <講座3>・「地域」のつながりは大切と考えつつ、選べない不自由さをともなった関係と、マイナスにとらえる母親のほうが圧倒的に多いのではないかと思います。・人に上手に迷惑をかけられる人に息子は育てほしいと思います。	
その他	問11 自由意見
	著名人に講師を依頼する場合、助成決定後(昨年は新年度の5月下旬)の打診では、同年度内の日程確保にリスクが生じる可能性も、今年度は応募の時期が前倒しになり、目的を立てやすくなっただろう。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	障害者の為の水泳教室		
団体名	サンデー親子水泳教室 (昭和56年10月設立)		
活動費	1,833,747 円	助成金額	300,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	210,000	202,562	前年度繰越金、利息26円
	活動収入	1,248,000	1,292,000	月謝 @8,000円×155人 会費@2,000円×13人×2回
	その他の収入	30,000	39,185	バザー 39,185円
	長寿応援ファンド助成	300,000	300,000	
	計	1,788,000	1,833,747	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	802,500	778,500	指導員謝礼 @50,000円×12ヶ月、補助員謝礼 @1,500円×79回、謝礼 @15,000円×2回、@5,000円×3人×2回
	消耗品費	6,800	1,355	入金、出金伝票@126円×6冊、ノート 105円、領収書210円、金銭出納帳284円
	印刷費	20,000	14,430	チラシ印刷代 3,150円、会員募集、原稿 3,000円、カラーインク代 4,980円、チラシ用紙代 1,050円、コピー代 2,250円
	通信運搬費	6,000	1,520	切手 320円、駐車料 1,200円
	使用料・賃借料	900,000	800,000	プール使用料 @20,000円×40回
	備品費			
	その他の経費	52,700	237,942	総会13,592円、会場費 1,430円、ミーティング代 1,537円、社協年会費 2,000円、ボランティア保険 900円、NPOフェスタ参加費3,000円、次年度繰越205,647円、その他9,836円
	計	1,788,000	1,833,747	

活動名:	障害者の為の水泳教室
------	------------

**2 事業の目的・内容**

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

<b>目的</b>	障害者のスポーツとして比較的身体に負担が少なく健康によいスイミング。指導者を頼み、ボランティア、保護者の手助けで水泳を学び、身体を動かすことのできる機会を増やすということを目的としている。
<b>計画内容</b>	杉並区堀の内スポーツハイツスイミングスクールに於いて、毎週日曜日午前8:30～10:00 上級者は各フォームのマスターや距離、中級者は持続力、初心者は水慣れなどを指導者より各自目的に向かって練習をする。

**3 活動の実施状況**

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
<b>実施状況</b>	杉並区堀の内スポーツハイツスイミングスクールに於いて日曜日、午前8:30～10:00 毎週1回実施。	会場であるスポーツハイツスイミングスクールの都合により 毎週実施できない月があったが、7月、9月、10月、11月、2月は毎週実施することができた。(年40回)

**4 実施活動の効果・成果**

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
<b>効果・成果</b>	障害者の体力増強、 障害者のストレス発散。 一般のプール使用なので、早朝練習で他の方が一緒にいる時にも迷惑をかけないよう社会学習的な要素を向上させる。	回数が増えたことにより、体力増強、ストレス発散、余暇の充実につながった。続けて指導を受けることにより、少しではあるが技術向上に役立った。

活動名： 障害者の為の水泳教室

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し特色は、障害のある人たちだけによる独自の水泳指導を受けられること。学習能力は個々の障害程度によりばらつきがあり、その効果は微々たるものであるが、継続することにより、小さな良い変化がみられる。また、指導者と話し合いをすることにより、更なる向上につなげたい。
効果・成果	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった パンフレットを作成し、各所に配布したことにより、この活動の認知が広まった。問い合わせがあり、見学者が2名あった。
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	活動パンフレットを作成し、和田交流館、高円寺交流館、いたる工房、杉並社協に各20部配布し、活動を認知してもらう。見学者が2名あった。
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	実施回数が、昨年度は、34回だったが、今年度は、40回に増え、継続的に指導を受けることができ、技術向上、体力増加、ストレス発散につながった。一般の方に迷惑をかけないよう、着替えなどをスムーズにできるよう気をつけ、社会性、マナーの向上が少しみられた。
その他	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	活動資金が強化されたことにより、活動日数が増え、参加者の健康維持向上、休日の余暇活動充実につながった。
	問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。
活動日が増え、休日の外出が多くなり、家族からも喜ばれた。参加者のストレス発散、体調維持に役立った。休日の過ごし方が充実した、など。	
問11 自由意見	
助成金を受けることができ、活動日数が増え、感謝しています。また、パンフレットを新たに作成でき、今後の会員増加につながればよいと思っています。障害者の学習能力は、個々に異なり、練習効果も顕著にでない場合が多いのですが、積み重ねがとても重要であることは、経験からいえることです。技術向上は小さくても、健康維持、余暇活動充実には、とても効果がありました。ありがとうございました。	

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	困ったときのSOS 地域で恩送り		
団体名	社会福祉法人 サンフレンズ (平成 6 年 4 月設立)		
活動費	363,350 円	助成金額	524,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金			
	活動収入			
	その他の収入			
	長寿応援ファンド助成	524,000	363,350	
	計	524,000	363,350	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等			
	消耗品費			
	印刷費	200,000	133,111	活動パンフレット(カラー刷り、三つ折×6000枚) 活動チケット(1000枚) 事務所PR看板作成
	通信運搬費			
	使用料・賃借料			
	備品費	317,000	230,239	電化製品(冷蔵庫、電磁レンジなど) 鍋など調理器具、キッチン用品
	その他の経費	7,000	0	法人負担としたため
	計	524,000	363,350	

活動名:	困ったときのSOS 地域で恩送り
------	------------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	地域住民がささやかな支援を受けたり、交流の場に集まって生活の安定を図る。
計画内容	1. 生活上の困りごとの連絡を受けて支援する(SOS支援)。 2. ふれあいサロンに参加して茶話会、会食、手作り教室を楽しむ。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	月曜日 10～15時 手芸教室 火曜日 10～14時 編物教室 パソコン教室 (月1回) 金曜日 10～14時 茶話会 会食	手芸教室 毎回数名が集まって手作り作品を作成している 編物教室 毎回7～8名が集まって編物をしている パソコン教室 1～2名が参加している 茶話会(10時から)には5～8名、会食には10～12名が参加している

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	・SOSセンターの事業全体を1枚のパンフレットに印刷し広域に配布し地域全体の周知と応援隊の募集を広げる。 ・会食開設の準備と充実を助成金で図り、会食がスムーズに運営できる。	・上井草地域以外にも利用者希望が周辺にも広がり、他地区からも活動内容を知りたい、と連絡が入ることがあった。 ・新鮮な食材で作りたての食事を10名程で楽しむことが毎週できて利用者は健康面でも喜んでくれている。

活動名:	困ったときのSOS 地域で恩送り
------	------------------

## 5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し 会食は旬の食材、高齢者の特徴、希望を盛り込み、出来立てを食すように配慮、食事を楽しみに人数が増えている。
問4 申請時の収支見込は適切でしたか。	
<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった	
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった ・会食の手伝いをしてくれる人、楽しみにしている人が増えている。 ・パンフレットを見てSOS活動の利用者、また、活動を知りたいと言ってくる人があった。
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	・SOS支援は年間を通じて平均的な利用実績があり、活動にボランティアの応援隊メンバーの参加が増えている。 ・サロン活動も参加人数が増え、会話や手作りの作品で、地域の若い母親や高齢者の交流が効果を上げている。 ・自宅に閉じこもりがちな独居高齢者にとっては孤立感の緩和になっており、生活の安定化に寄与している。
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	・人との交流ができサロンに集まるのが楽しみと休まずに参加している方が多い。 ・応援隊が数名から16名になり、SOS支援、サロンの教室指導等に力を発揮している。 ・会食に参加する人が茶話会にくる人より多くなり、障害のある青年等も毎回出席し食事を楽しんでいる。 ・年齢にこだわらずに子供連れの若い母親と年配者が親しく会話し、お互いに学びあう様子がみられるている。
	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	・キッチンの設備が充実でき、参加者の希望のメニューを作ることができている。 ・冷蔵庫、炊飯器等、しっかりした大きなものが購入ができたので、今後、一週間に複数回の会食会を開ける可能性ができた。 ・活動PRパンフレットは全てのSOS事業を盛り込んで6000部印刷でき、広く地域に配付できた。
問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。	
・茶話会、会食会の充実を望む声がある。・とくに男性の参加者からは会食会を楽しみにしている声強い。 ・法人関係者からは前身の杉並・老後をよくする会の活動の再現と評価されている。 ・介護保険事業者のヘルパー自身が仕事の限界を感じていた、とSOS事業がどのような内容なのかを知りたい、と来所された。 ・「パンフレットを見たが、お手伝いできないか？」と他地区からの問い合わせがある。	
その他	問11 自由意見
	まだまだ地域全体に周知されているとはいえないが、地域の中に根ざした支援や活動の実態が区民に浸透してきているように思っているので、今後いっそうの努力をしたい。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	和田堀プレーパーク		
団体名	杉並ねっこワーク (平成 23 年 1 月設立)		
活動費	360,388 円	助成金額	324,028 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	0		
	活動収入	13,000	26,000	正会員会費1000円×13名、賛助会員会費500円×26口
	その他の収入	9,000	10,360	カンパ
	長寿応援ファンド助成	464,000	324,028	人件費、消耗品、印刷費、保険代等
	計	486,000	360,388	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	270,000	245,000	プレーリーダー代10000円×23(7月中止、病欠1回あり)、ボランティア謝礼3000円×5
	消耗品費	18,000	34,206	釘11435円、炭6939円、ホイル・ゴミ袋・ボンド等8924円、のこぎり替え刃・きり等6908円
	印刷費	63,000	22,931	用紙代20331円、印刷代2600円
	通信運搬費	0		
	使用料・賃借料	0	0	
	備品費			
	その他の経費	135,000	58,251	保険代1500円×1、2500円×8、保険請求時封筒代231円、保険請求時切手代160円、次年度繰越金36360円
	計	486,000	360,388	



活動名:	和田堀プレーパーク
------	-----------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	1、子どもたちが主体的に想像力を働かせて自由に遊び、心身ともに健やかに育つことができるようにする。2、木登り、木工、たき火、ロープワークなどができる機会を都会住まいの子にも与え、遊ぶ力が乏しい子には、保護者とは違う大人「プレーリーダー」が見まもり、時にヒントを与えて行動する力を身につかせる。
計画内容	実施時期: 5月13日、6月10日、7月8日、9月9日、10月14日、11月11日、12月9日、2月10日、3月10日 場所: 善福寺川緑地 緑陰広場 対象者: 未就学児および高校生までの児童を中心に、その家族等。杉並区報およびHP、チラシで告知 実施方法: 緑陰広場にて、木工、木登り、木渡り、竹棒のぼり、ロープワーク(ブランコ等)、ハンモック、どろんこ、たき火のスペースを用意し、プレーリーダーとともに自由遊びの場を作る。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	4月 スタッフミーティング	ミーティングを4 - 3月まで毎月1回、合計12回行った。参加は正会員のみのみ。 プレーパークは全8回開催(雨天により7月が中止)、延べ1000名以上の参加があった。
	5月 スタッフミーティング 13日 プレーパーク	
	6月 スタッフミーティング 10日 プレーパーク	
	7月 スタッフミーティング 8日 プレーパーク	
	8月 スタッフミーティング	
	9月 スタッフミーティング 9日 プレーパーク	
	10月 スタッフミーティング 14日 プレーパーク	
	11月 スタッフミーティング 11日 プレーパーク	
	12月 スタッフミーティング 9日 プレーパーク	
	1月 スタッフミーティング	
	2月 スタッフミーティング 10日 プレーパーク	
	3月 スタッフミーティング 10日 プレーパーク	

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	1、禁止事項のない公園で子どもたちが主体的・創造的に遊べる。 2、体全体を使って遊ぶことで、健やかな体をはぐくむ。 3、今後活動が広がると、保育園や長期休み中の学童クラブの散歩の場となり、保育および育成の幅が広がる。 4、学童クラブに在籍できない子の放課後の安全な居場所となる(今後平日開催することができるようになったら)	1、禁止事項のない公園で、子どもたちが主体的・創造的に遊べるようになった: 木工やたき火、棒渡り、木登りなど禁止事項がない、ありものの遊具はない環境の中で、自ら遊びを見つけ出す力をはぐくむことができた。また、学校や年齢が違う子どもたち同士が、納得できる遊びのルールを自ら作り、遊ぶ様子も見られた。 2、体全体を使って遊ぶことで、健やかな体をはぐくめた: 合計8回、各回100~150名の参加があり、のべ1000名以上の子どもや保護者の自由遊びの場を提供できた。回を追うごとに体の使い方がうまくなり、当初は木工でも棒渡りでもプレーリーダーや保護者のフォローが多く必要だった子どもも遊び方がうまくなった。 3、保育・育成の幅を昼ゲル場としての役割を担える: 保育園の親子遠足の場として訪れたい、学童クラブの夏季育成中の外遊び場として訪れたいという要望を頂いた。また、南伊豆健康学園OB等から、今後区内で親子の交流の場の受け皿としてプレーパークを活用したいという要望も頂き、視察もあった。活動により、地域の絆を深める役割も担っていけるようになった。 4、平日開催も視野に: 毎回開催の度に「平日も開催してほしい」という要望を頂く。このような声を集約し財源が確保できれば、学童クラブに在籍できない子や卒クラブ後の安全な居場所となる。

活動名: 和田堀プレーパーク

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し通常の公園ではできない自由な遊びの場を地域の多くの子どもや保護者のために作ることができた。また、学校や保育園、学年等にとらわれず、多くの子どもや大人が自然と交流できる場となった。
	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった	
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった 昨年度までは町内会の回覧板などにチラシをはさめなかったが、今年度はできるようになるなど、より多くの人に告知できるようになった。区報だけでなく、近隣の学校や回覧板のチラシを見て訪れる参加者も数多くいた。告知の広がりにより、地域の大学生が手伝いたいと志願してくれるなど、支援者も広がった。賛助会員も26口集まった。
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	地域の子どもの通常の公園ではできない自由遊びの場を提供できた。障がいのある子どもたちの参加もありインクルーブな育ちの場となった。地域のお年寄りが笑顔で声をかけてくださり、地域全体で子どもを育てるという動きの一助となった。南伊豆健康学園のOBなどから、今後区内で親子の交流の場の受け皿としてプレーパークを活用したいという要望も頂き、視察もあった。地域の絆を深める役割も担っていけるようになった。
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	1、禁止事項のない公園で、子どもたちが主体的・創造的に遊べるようになった:ありものの道具がない環境の中で、自ら遊びを見つけ出す力をはくむことができた。学校や年齢が違う子どもたち同士が、納得できる遊びのルールを自ら作り、遊ぶ様子も見られた。2、体全体を使って遊ぶことで、健やかな体をはくめた:延べ1000名以上の子どもや保護者の自由遊びの場を提供できた。回を追うごとに体の使い方がうまくなり、当初はフォローが多く必要だった子ども遊び方がうまくなった。3、保育園の親子遠足の場として訪れたい、学童クラブの夏季育成中の外遊び場として訪れたい等の要望を頂いている。
	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	ファンドからの助成と言うことで、安心感・信頼感が増し、町内会の回覧板や地区の学校でのチラシの回覧・配布がよりしやすくなった。また、まとまった額の助成を受けられたことで、安定した月1回ペースの活動が可能となり、合計8回、のべ1000名以上が参加するイベントを開催することができた。
問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。	
*子どもがとても楽しみにしている。*普通できない自由な遊びができてうれしい。*羽根木まで通っていたが、家の近くにプレーパークができうれしい。*転校したけど、ここに来ると前の学校の友達と遊べてうれしい。*今度紙トンボを教えにきたい(地域のお年寄り)*子どもたちのために端材を使ってほしい(地域の工務店)*夏にキャンプをしてみたらどうか*防災イベントに協力してもらえありがたい(公園事務所)*障がいのある娘にも他の子どもたちが自然と声をかけてくれ、交流できていてうれしい*平日も開催してほしい*親子遠足で来たい(保育園園長)*学童クラブの外遊びの場として活用したい(クラブ職員)	
その他	問11 自由意見
	今回の助成金により、ほぼ毎月開催できたことで、地域への浸透度も高まった。これをきっかけに、来年度以降も継続した活動を行っていききたい。また、安定した活動のために、区との話し合いの場も設け、単年度助成金にのみ頼るのではない運営の仕方を考えていきたいと思う。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	小中学生や 高校生 青年が 話し合って行事を企画し 実現させる活動		
団体名	どろんご少年団 <span style="float: right;">昭和 60 年 11 月設立)</span>		
活動費	745,683 円	助成金額	365,383 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入	項目	予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)	
	団体負担金				
	活動収入		307,500円	各種イベント参加費	
	その他の収入	46,400円	72,800円	杉九小土曜日学校「あそびの会」謝金 ゆうやけ市謝礼金	
	長寿応援ファンド助成	489,000円	365,383円		
<b>計</b>		<b>535,400円</b>	<b>745,683円</b>		

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等			
	消耗品費	10,600円	9,418円	印刷用紙、インク代
	印刷費	3,500円	21,490円	夏のどろんごキャンチャシ印刷代16,700円 その他印刷代4,790円
	通信運搬費			
	使用料・賃借料	522,000円	334,475円	キャンプ場 春夏2回合計235,900円 レンタカー(下見用・当日食材資材運搬用)×2回85,890円 会場費12,685円
	備品費			
	その他の経費		380,300円	交通費・食材費等(助成金対象外)287,560円 次年度繰越金92,740円
<b>計</b>		<b>536,100円</b>	<b>745,683円</b>	

活動名:	小中学生や 高校生 青年が 話し合って行事を企画し 実現させる活動
------	-----------------------------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	地域の小中学生が自分たちがやりたいことを話し合っで企画し、指導員(主に元団員の高校生と青年)の助けを借りて実現させる。子どもも指導員も、その活動を通して、仲間と何かを作る楽しさ、自分を受け入れてもらえる安心感、他人の役に立つ喜びなどを味わい、自己肯定感を育てる。学校生活が苦手な子ども、安心して自分を出せる居場所になる。また、親にとっても地域に友人を作り、子育ての悩みや不安を解消し、さらに自分の技術や能力を発揮、地域に貢献できる居場所になる。
計画内容	どろんこキャンプ(5月3～5日 秩父・浦山口キャンプ場)は少年団員と地域の小中学生を対象とするので、小中学校にチラシを配布、参加希望の親子を募る。キャンプ前に団会を開き、班の交流を図るとともに、持ち物分担やメニューを決め、歌の練習をする。親は子どもとは別に親班で活動。自分たちも楽しみ、裏方としてキャンプを支える。プログラムは、子どもと指導員が決めていく。8月にも同様のキャンプを企画。 団の行事 = 団会 = 毎月1回開催。指導員が子どもの運営委員を招集し話し合う。指導員は毎週火曜日に会議。団会が決まると「どろんこ新聞」を発行、運営委員が団員の参加確認を取り団員でない子にも指導員が案内する。団会に必要な資材、食材等は、指導員と親とで準備する。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	指導員会議 = 毎週1回 運営委員会 = 団会前に2回くらい 団会 = 月1回くらい (キャンプ前2～3回 / 文化祭前5回くらい) 杉並子どもの組織を育てる会総会 父母会おけらの会総会 どろんこキャンプ = 5/3～5、8月 キャンプ場の下見 杉九小土曜日学校「あそびの会」 = 4、6、11、1月 ゆうやけ市で「昔あそび」担当 = 5、11、3月 杉九小PTA主催「すぎくまつり」参加 運営委員の選挙 文化祭	指導員会議 = 7月まで毎週火曜日・8月から水曜日 運営委員会 = 団会前に1～2回 団会 = 4/22、29キャンプのための団会、6/10ザリガニ釣り・運営員選挙、7/28、8/12、15キャンプのための団会、9/23秋刀魚を食す会、10/28ハロウィン、11/25中野運動会参加、12/9クリスマス会、1/27お正月あそびの会・選挙、3/3、10、17、20、23文化祭の劇の練習 どろんこキャンプ5/3～5、8/18～20 青空学校2/11、文化祭3/24 「あそびの会」4/21、6/30、11/18、1/26 ゆうやけ市5/13、11/11、3/17 杉九小「すぎくまつり」9/15、「もちつき大会」2/16 育てる会総会4/30、おけらの会総会6/15 運営委員おつかれさま会3/31

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	子どもたちが安心して自分の力を発揮できる。(実績:登校拒否の生徒が団活動は続け、その後指導員として活躍している。その一方学校でもリーダーになれる生徒もいて、様々なタイプの子が互いの良さを認め合い、ありのままの自分で活躍できる場になっている) 高校生と青年が考え、話し合うことで互いを認め合い、達成感を味わう。 キャンプ等の活動で、生活を工夫し「生きる力」を身につける。 大人にとっても仲間ができ、子育てや自分のことを考える場所になる。 地域に子どもから大人までのコミュニティができる。	夏のキャンプは子ども10人が参加したが通う学校は7校、学校とは違う友だちと友情を育てている。学校の間関係が難しい子ども、少年団では本来の自分ではいられないのでは、指導員も同じで、中学校はいじめられ登校できなかった高校生が1学期は高校生活に専念し、指導員として夏のキャンプに参加。穏やかな態度で子どもたちに接し自らも楽しんでた。学習障害があり高校にほとんど行けなかった青年は、先輩の援助を受けながら責任者の任務を全うした。 学校に行かなくなった高校生は「自分は価値のない人間だ」と嘆いていたが、行事の準備をしながら青年に認められ、当日は大活躍をした。 5月のキャンプは雨だったが子どもと指導員で話し合いプログラムを変更、有意義な内容を作った。夏のキャンプでは難しいメニューに挑戦し達成感を味わった。 息子がゲーム中毒のようになり悩んだ母は、団の活動に親子で復帰することにより、息子が本来の姿を仲間にも認められていく様子を見て安堵、母も活躍する場となった。 親が団行事に協力することにより、行事のクオリティが上がり指導員の満足度も上がった。子ども 指導員 親と、懂れる関係が育っている。

活動名:	小中学生や 高校生 青年が 話し合っ て行事を企画し 実現させる活動
------	------------------------------------

## 5 自己評価

目的	<b>問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<b>問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。</b>
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	<b>問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記し、月1回の団会は指導員が招集する運営委員会(小4以上の団員5名、選挙で選出)で話し合い「どろんこ新聞」を書いて団員に知らせる。指導員会議で団会の内容をつめ、参加者の確認を取る。会場の予約や食材の買い出しなどは父母が担当する。団会当日は運営委員がプログラムを進行し、指導員がそれを助け盛り上げる。親も引率、見守り参加して、その様子を報告する「おけらNEWS」を父母会が発行。父母会のHPもある。
	<b>問4 申請時の収支見込は適切でしたか。</b>
<input type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input checked="" type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった	
効果・成果	<b>問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。</b>
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<b>問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった 小学生の保護者が団行事に積極的に関わるようになり、杉九小PTA主催の行事を手伝うようになった。今年はおもちつき順番待ちのグループを遊ばせることを依頼され挑戦。50人ずつ全校児童を遊ばせたが、子どもたちの良い表情を引き出し、PTAから絶賛された。
	<b>問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。</b>
	今の中高生は学校ではまわりに気を遣い目立たないように過ごしているようだ。少年団ではありのままの姿が認められ、安心して自分の力を発揮している。また、「あそびの会」は杉九小を卒業した若者が講師をしている「土曜日学校」の中でも特殊なもの。「ゆうやけ市」への参加も、若者が自分の地域に貢献する意識を育てていると思う。
	<b>問8 どのような実施効果がありましたか。</b>
	子どもたちも指導員も、アイデアを出し合っ て考えて、やりたいことが実現できる楽しさを感じ、みんなで同じ目標を持って、大変なことにも取り組み、達成感を味わうことができた。ひとりひとりの成長が見え、それを親たちも分かち合うことで、子育ての喜びを深めることができたと思う。
	<b>問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点がありますか。</b>
	キャンプを2回開催できた。夏は貸切バスを利用して混雑していないキャンプ場を利用、のびのび過ごすことができた。また、キャンプのチラシをカラー印刷し、近隣校へ配布。今回申し込みは少なかったが、少年団の存在をお知らせすることができ、来年以降につながる期待が持てる。会場費がかかる区民センターや小学校の体育館でも団会ができた。
<b>問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。</b>	
・中2母「息子が難しい時期に入り、家庭ではこれまでどの違いに戸惑っているが、少年団の活動が救いになっている。家庭や学校とは違った成長を見せてくれる」 ・杉九小もちつき大会のあそびを見た教員「子どもたちが教員の前では見せない表情をしていてびっくりした」 ・「文化祭」に取り組んだ指導員「大変でもみんなで頑張っ てより良いものにして、みんなで達成感を味わうことが大事。どろんこの劇はクオリティが高かった」 ・「文化祭」を観劇した小学生母「学校の学芸会とは違うね」	
その他	<b>問11 自由意見</b> ありがとうございます。団行事への子どもの参加が減り、経済的に困るので助成金を申請しましたが、さらに参加者が減り、1学期は6人でした。夏以降10人前後に増え、3学期には「あそびの会」効果があり18人に。さらに杉九小もちつき大会のお手伝いでは、全校児童300人と遊ぶことができました。どろんこ少年団が大いに進化した1年になったと思います。4月からもっと充実できるよう、活動していきたいと思っています。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	ダーツで育む地域の絆		
団体名	NPO法人 プロップK (平成 17 年 10 月設立)		
活動費	584,327 円	助成金額	380,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	61,500	53,788	本部活動費より補てん
	活動収入	230,000	148,100	参加費@525×140人@300×27人検定料@3500×19人
	その他の収入	12,000	2,439	テキスト@600×4人 利息39円
	長寿応援ファンド助成	380,000	380,000	ファンド助成金 380,000円
	計	683,500	584,327	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	450,000	488,340	講師謝礼 10,000×12回=120,000円 8,000×25回=200,000円(別紙明細通り) 3,000×51回=153,000円 交通費計15,340円
	消耗品費	102,500	5,359	文具・ダーツフライト等 5,359円
	印刷費	8,000	450	カラーコピー 450円
	通信運搬費	55,500	32,943	郵便送料 9,350円 運搬費 23,593円
	使用料・賃借料	22,500	10,800	会場使用料 @12,00×9回=10,800円
	備品費	0	0	
	その他の経費	45,000	46,435	保険料 7,500円 交流会雑費 2,410円 資格検定経費(振込料込)36,525円
	計	683,500	584,327	

活動名:	ダーツで育む地域の絆
------	------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	元気な高齢者の地域活動推進 地域貢献できる人材の育成と教育現場等へのスキルのある人材の提供 児童生徒の思考力基礎計算力の向上・高齢者との交流の機会提供 地域教育の理解と必要な地域力の提供 三世代に渡る異世代交流と地域の絆作り
計画内容	年齢性別など問わずだれでも楽しく行える公式ハードダーツを仲間と共に体験し、さらに認定指導員やレクリエーションリーダーなど地域活動に必要なスキルを身につける。その後協会認定指導員資格取得に挑戦する。資格取得後には区内小学校や地域イベントなどにボランティアとして活動。実践的な経験を通じて地域教育の理解やボランティア精神などを理解学ぶ。児童生徒若者などとの交流体験によって双方の行動変容など調査分析し、今後の地域活動参加を促す

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実 施 状 況	5月 助成事業実施協力団体説明会	団体説明会 5月22日8名 久我山小学校
	6月 同説明会計画参画協力要請	企画会議 5月～3月 6回 新宿レク協会会議室にて 5/14・10名 6/1・19名 6/25・9名 7/19・11名
	7月 人材育成ダーツ講座実施	12/19・7名 3/5・11名
	8月 同講座実施	養成資格講座 育成8回 資格検定1回 全9回 8月～9
	9月 資格取得要権取得者対象 資格検定講座・検定試験 実施	月会場:久我山東区営アパート集会所 開催日・参加者数 8/3・14名 8/10・15名 8/17・15名 8/24・18名
	10月 ダーツ異世代交流準備会議	8/31・18名9/7・18名 9/14・19名 9/21・15名 9/28・
	11月 幼児・児童その保護者対象 ダーツ体験会実施	13名 研修体験(5回)日程・主催・イベント・研修対象者・イベ ント参加者10/20・葛飾教育委員会主催 プレ国体ダーツ
	12月 小学校高学年、中学生徒対象 ダーツ体験会実施	大会・16名・184名11/17・西荻区民センター・健康フォー ラム・7名・60名11/18・社協)地域フォーラム・10名・90名
	1月 区内若者対象 ダーツ体験交流大会	西荻区民センター12/19・久我山小学交流・14名・児童教 師19名・久我山小研修室2/9・若者障害者交流・10名一般
	2月 振り返りまとめ会議	子供障害者含29名3/2・高井戸第二小交流・14名・児童保 護者教師・36名
	3月 報告書作成	

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>高齢者の健康維持、基礎体力の強化。 性別や年齢などを問わないダーツゲームの特性を利用し自然に判断力・決断力・計算力・柔軟な思考力などを強化、養成する。 ダーツに必要な不可欠な計算はの児童生徒が遊びを通じて基礎計算能力を向上させる事ができる。 高齢者特に男性との関係が築きにくい「子ども世代」と教育や地域の福祉活動への参加を促す事によって、三世代にわたる地域交流のできる。その体験を通じて「地域の絆作り」の一環となる</p>	<p>単なるダーツ体験講座ではなく学識経験者レクリエーション活動の専門家なども交えた会議により作成したプログラムによって、参加者が自ら活動の趣旨を理解していった。そのことにより想定した以上の資格取得者ができた。又その資格を生かそうと言う積極的な姿勢が効果としてみられた。実践活動を通して現在の教育環境や児童の様子などを知ることによって、当初は自分達の時代とのギャップに悩む姿も見られたが、現況を理解した上での「高齢者の関わり方」を学んでいった。ダーツと言う共通のツールを利用することでコミュニケーション能力なども補い「仲間」意識を持つまでがとても速い。子どもとの交流は高齢者を活性する事は以前からいわれているが、今回の体験によって、子どもも高齢者から多くの学びをし、相互に有効なツールであるとの中間分析が学識経験者より提言された。25年度より区内小学校でのダーツ課外クラブ実施が決定されている。継続が一番重要な課題であったがその布石ができた事は大きな成果と言える。</p>

活動名: ダーツで育む地域の絆

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<p>「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し高齢者へのダーツ指導における当団体の知名度や実地結果を踏まえさらに長寿ファンド助成事業という効果もあり、多くの専門家が支援してくれた事でプログラムが向上。これまでの活動を通じた他団体が協働してくれた事で研修や実践活動のプログラムが充実。その効果により非常に有用な人材育成ができ人数も確保する事ができた。その参加者の気持ちの変化などを調査する程度で終了予定だったが、自ら積極的に活動基盤をつくる所まで昇華する事ができた。</p>
	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input type="checkbox"/> 適切であった <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	<p>長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。</p> <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	<p>高齢者のリタイヤ後の地域活動場の提供とQOLの向上 支援人材豊富な地域教育環境づくりとその活動支援 世代間交流による人とのふれあいのある豊かなまち作り</p>
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	<p>すでに、自己の健康充実や生きが活動には積極的な高齢者は多く存在するが、その意欲をさらに一歩進め、ボランティアとしての新たな「生きがい」を自ら見出すと言う効果があった。 「元気な高齢者」が地域リーダーとして活動していく自信と望まれる活動スキルと方法を身につけることができた。 若者や子育て世代と共に「広く、大きくつながりあえる地域効果」を体感した事で、支援協力の場と協力支援体制が整った。</p>
	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	<p>参加者の募集に際し、そのネームバリューを利用する事ができ、周知の機会と場が多くもてた。 行政助成認証事業であることによって、会場利用優遇や学識経験者や専門家への報償費協力を得られ、意欲的な企画案や実施プログラムの構成に資金面でも協賛してもらえた。相対的な事業の質が向上した。さらに参加者の受講費・検定費などを減額する事ができ参加者増と負担軽減に役立った。無料化できた活動もあり多方面より参加者が得られた</p>
問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。	
<p>「子どもとふれあう事がこんなにも楽しいとは思わなかった。自分の子どもとずっと遊んであげる時間を作ればよかった少し後悔している。その分これから多くの人に楽しんでほしい、オヤジもやるな！と思わせたい」と言った男性の声が特に印象に残っている 久我山小学校校長からは25年度児童のクラブ活動にダーツをしていきたいので協力をお願いしたい」と具体的な要望がよせられ実施具体化に入っている。被災地支援事業計画に「おむすび会」の支援協力要請が上がった。</p>	
その他	問11 自由意見
	<p>いままでダーツ協会との連携はあったものの独自性の強い特色ある事業だった故に市民や団体への事業効果理解を得る機会がなかなかなかった。今回長寿ファンド事業で行った事により広くその事業効果の理解と好影響を提供する事ができた。また事業が継続的に発展する基盤が強固になる事ができた事ここから感謝し今後もこの成果を地域にフィードバックしていきたいと思っている。</p>



## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	街まちマーチ		
団体名	街まちマーチ (平成 19 年 7 月設立)		
活動費	608,410 円	助成金額	400,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	124,200	72,670	
	活動収入	105,000	127,000	
	その他の収入			
	長寿応援ファンド助成	400,000	400,000	
	計	629,200	599,670	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等	150,000	90,000	講演会講師、演奏会アーティスト、コーディネイトなど
	消耗品費	14,800	3,620	映像撮影用テープなど
	印刷費	56,000	110,000	デザイン料、用紙代など、印刷一式
	通信運搬費	6,400	0	郵送での周知ではなく、口コミにて
	使用料・賃借料	30,000	0	
	備品費	0		
	その他の経費	372,000	396,050	WEBサイト制作 ネット配信映像費 イベント保険
	計	629,200	599,670	

活動名:	街まちマーチ
------	--------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	杉並の街を歩き、地域の人材や隠れた歴史、文化の発掘を中心とした参加者交流イベントの開催と、若者世代への周知。
計画内容	毎年2回、杉並エリアで開催(5月、11月頃)。いままでの募集方法はチラシや口コミが中心だった。今回、もし助成をいただけた場合、若者を仲間を増やしていくため、インターネット等でも積極的に情報発信をしたい。イベントの参加者は60〜70代の方々为中心。若者スタッフ&参加者を積極的に加えて、イベントを通じて世代交流を実現したい。

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	<p>4月 第9回調査、資料作成、参加者募集。</p> <p>5月 第9回ルート選定、資料作成(5月27日開催)。今回はインターネットでの簡易情報を発信予定。</p> <p>6月〜10月 反省会・企画立案(月2回程度、全員での会合)。会合以外は、各自が独自で調査等。助成をいただいた場合、SNSで積極的に発信等。</p> <p>11月 第10回ルート選定、資料作成(11月開催予定)。会合以外は、各自が独自で調査、SNSでの発信等。</p> <p>12月〜3月 反省会・第11回の調査・企画(月2回程度、全員での会合)。</p>	<p>4月 第9回のための現地調査など。</p> <p>5月 ルート選定、資料作成。SNSで情報発信開始。5月27日に本番開催(西荻地域区民センター等にて、参加者35名)。</p> <p>6月〜11月 反省会、第10回の企画立案。SNSに関するレクチャー受講。若者へのアプローチ。若者への協力依頼を発信するが、うまくいかない状況が続く。</p> <p>12月2日に第10回開催。通常は参加費3000円だったが、今回は食事代として1000円の実費参加費のみをいただく形で開催(西荻窪散策。参加者22名)。</p> <p>1月〜3月 第10回の反省、今後の方針の再確認。第11回に向けての企画立案。</p> <p>2月 もっと若者向けにアプローチできる方策を検討。ホームページの内容を刷新することに。第11回に向けてのホームページの改修、チラシ作成。</p>

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>・インターネット(SNS・ホームページ)の勉強と発信により、若者が「街まちマーチ」に大きな関心をもってもらうこと、さらには協力者になってもらうことを期待した。</p>	<p>・インターネット(SNS・ホームページ)の発信により、若者たちに多少なりともイベントに対して興味をもってもらった。</p> <p>・積み上げてきたイベントのやり方をメンバーが見直す機会を得られた。若者からの柔軟な意見に対して拒否感があったメンバーもいたが、凝り固まった価値観を壊すきっかけとなった。</p> <p>・期間中、メンバーも悩み、口論になることもあった。しかし、常連参加者から激励を受けたり、若者を紹介していただいたりと、いままでない広がりにつながった。</p> <p>・SNSやインターネットに関しては、非常に安易に考えていたところがあり、単純な操作すらできないメンバーもいた。そのためにレクチャーを受けたりもしたが、うまく使いこなせるところまでいかなかった。その結果、若者の協力者の増加までにはつながらなかった。しかし、前述のとおり、常連参加者からの紹介などで確実にアドバイスをいただけるような若者も数名だけが生まれてきている。</p> <p>・ホームページも若者のアドバイスを受けて改修した。見る人に明るい印象を与えられるような画面構成にし、イベントイメージを根本的に変えていく形で活動していく。</p>

活動名： 街まちマーチ

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し いままで自分たちが積み重ねてきたスタイルを見直すことにつながった。まだ若者との交流がうまくいっているわけでは ないが、協力してくださる若者の意見を取り入れながら、飛躍していきたい。
問4 申請時の収支見込は適切でしたか。	
<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった	
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。 <input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった 当初の目的の若者に対するアピールは発展途上だが、いままでの常連参加者が親身になって「街まちマーチ」のことを 考えてくださるようになった。新たに地縁組織とのコラボの可能性も出てきた。そういった方々から若者の紹介にもつな がっている。
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	・事前調査での地域交流、活動中での世代相互理解の場 ・参加者との交流(仲間の輪の広がり) ・決して有名ではないが、とても価値がある地域の文化、活動者、お店の紹介 など
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	・若者との接点を作るきっかけとなった。 ・高齢者であるメンバーがあらためて世代間の価値観や考え方、興味内容などの違いを実感した。
	問9 ファンド助成金を受けて良かったと思う点はありますか。
	・活動の際、活動の信頼性が高まり、説明するのに役立った。 ・ホームページやPR用の映像制作など、捻出がむずかしい資金として役立った。 ・専門的な講師をお呼びすることができた。
問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。	
「住んでいても気づかないことってあるんですね。勉強になりました」「驚きがいっぱいだった!」「参加費3000円は高いと 思ったが、資料も充実していて安いと感じた」「毎回違ったテーマで、新鮮な街歩きを楽しんでいます」「どうやってネタを 発掘してくれるか、スタッフの皆さんには頭が下がります」「演奏会も本格的! 地元でこんな楽しい一日を過ごせるとは!」 「もうちょっと長い距離を歩きたかったかな」「また資料を持って、散策してみたいと思います」など。 アンケート等からの 抜粋。	
その他	問11 自由意見
	世代交流を掲げていながら、結果的には自分たちの器の小ささを思い知らされることになった期間だった。しかし、非常 に先につながる可能性も見えてきたと思っている。助成金だからこそ、必死で自分たちの進むべき方向性を考えさせられ た。今後はインターネットを活用して、若者をはじめ多くの世代の方々イベントの魅力、杉並の魅力を発信していくこと に務めたい。ありがとうございました。

## 助成金対象活動報告書(平成24年度)

活動名	買い物困難者高齢者外出支援「ホッと一息縁台」設置活動		
	和田自治協力会		
活動費	500,784 円	助成金額	500,000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

\* 収入・支出ともに予算額は申請時の金額を記載します。

\* 支出を証明する領収書(写)をご提出ください。

収入		予算額(円)	決算額(円)	実績(内訳)
	団体負担金	35,894	784	町会補助金
	活動収入			
	その他の収入			
	長寿応援ファンド助成	500,000	500,000	
	計	535,894	500,784	

支出	費目	予算額(円)	決算額(円)	決算額内訳
	謝礼金等			
	消耗品費	244,894	252,810	のぼり 10本(ポール付き) 24,570円 縁台製作 8台 198,240円 縁台メンテナンス(年間) 30,000円
	印刷費	41,000	25,974	プリント用インクジェット ポスター用フィルム A-4コピー紙
	通信運搬費		2,000	縁台設置事業者との打合せ交通費2名分
	使用料・賃借料	240,000	210,000	縁台設置謝礼 7軒×10ヶ月×3,000 210,000円
	備品費			
	その他の経費	10,000	10,000	利用者アンケート制作・集計 三ヶ所2ヶ月逐次集計
	計	535,894	500,784	

活動名:	買い物困難者高齢者外出支援「ホッと一息縁台」設置活動
------	----------------------------

## 2 事業の目的・内容

\* 申請時の活動計画書に記載したものを記入してください。

目的	商店街に「縁台」を設置することによる、高齢者を中心とした「買い物困難者」の外出支援
計画内容	和田商店会内休眠店前を活用し、縁台を設置し、買い物困難者の外出支援の一助とする活動

## 3 活動の実施状況

\* 実施日時、場所(会場)、対象者、参加人数等、活動の具体的な実施状況を記入してください。

	計画時(予定)	実施時
実施状況	<p>実施時期:平成24年4月から縁台設置広報開始 平成24年6月から縁台逐次設置開始</p> <p>設置場所:和田商店会休眠店など8箇所</p> <p>対象者:高齢者及び障害者など「買い物困難者」</p> <p>実施方法:地権者及び和田商店会の協力を得て、設置場所の位置を決定した。</p>	<p>実施時期:計画通り</p> <p>設置場所:休眠店が駐車場になったり、車の通行障害などにより、設置場所の変更をした。加えて一軒は置いてみたが「重く」出し入れ不可能と判断され、撤去し、結果7箇所となった。</p> <p>対象者:計画通りであったが、子育て世代の利用も多く見られた。</p> <p>実施方法:計画通り行ったが、一部では、夜間青少年の「溜まり場」になる心配が無いと判断し、24時間常設にした。(3箇所)</p>

## 4 実施活動の効果・成果

\* 活動計画書に記載した「期待される効果」と、活動を実施してどのような効果・成果があったかを記入してください。

	計画時の「期待される効果」	実施後の「実際の効果・成果」
効果・成果	<p>1、「商店会に一息つく『お休み処』が無いので疲れる」という高齢者の苦情と</p> <p>2、「テレビを見ていても会話できない、人と話したい」という希望・意欲、に応える施策として「外出するキッカケ」が必要だと考えた。</p> <p>「買い物困難者」の外出支援によって、世代間の会話と交流が生まれ、高齢者に優しい商店会として活性化され、地域全体が温かい、自然に「見守り」「声かけ」ができる地域環境への一助にしたいと考えた。</p>	<p>所期の目的であった「高齢者の外出支援」の役割は果たした。</p> <p>自宅で「配食」を待つ生活から、買い物に出かける意欲とテレビから離れ、人と会話を楽しめる機会となった。</p> <p>縁台を管理する商店会店主からは、「買い物が楽しくなったと客が喜んでいる」という報告が寄せられている。</p> <p>利用者からは「外出が楽しくなった」という声が寄せられた。</p> <p>子育て世代からは「縁台を設置した人の優しさが嬉しい」という声が届いた。</p> <p>町会と商店会の協働事業として大きな成果となった。共にそれぞれの役割と責任を果たし、地域の活性化という目標に向かって大きく一歩踏み出した、と実感している。</p>

活動名: 買い物困難者高齢者外出支援「ホッと一息縁台」設置活動

5 自己評価

目的	問1 活動は当初の目的どおり実施できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
活動内容と実施	問2 計画したとおり(活動内容、スケジュール等)実施できましたか。
	<input type="checkbox"/> 充分できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問3 独自の創意工夫で、特色ある活動できましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	<p>「充分できた、ほぼできた」と回答した場合は特色を、「あまりできなかった、できなかった」と回答した場合は理由を記入し、縁台の設置場所は各所みな状態が違い、一つ一つ確かめ、勾配、高さ、のぼり設置箇所を決めていった。商店会の皆様のご協力によって「臨機応変」に対応できたことで年間事故も無く実施できた。</p>
	問4 申請時の収支見込は適切でしたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切であった <input type="checkbox"/> ほぼ適切であった <input type="checkbox"/> あまり適切ではなかった <input type="checkbox"/> 適切ではなかった
効果・成果	問5 計画通りの実施効果を得ることができましたか。
	<p>長寿応援ファンド活動助成金交付申請書「活動計画書」の実施効果欄に記載した内容に対応させてください。</p> <input checked="" type="checkbox"/> 充分できた <input type="checkbox"/> ほぼできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった
	問6 今回の活動を通して、理解者や支援者は広がりましたか。
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> あまり広がらなかった <input type="checkbox"/> 広がらなかった
	問7 実施した活動はどのような点で社会貢献になっていますか。
	<p>所期の目的であった「高齢者の外出支援」の役割は果たした。利用者からは高い評価をいただいた。自室で「給食」を待つ生活から、買い物に出かける意欲とテレビから離れ人と会話を楽しめる機会となった。</p>
	問8 どのような実施効果がありましたか。
	<p>外出支援に加え、縁台に座ることで見知らぬ方々との会話が生まれ、縁台の出し入れを行う店主も意識して見守ってくれている。</p>
	問9 ファンド助成金を受けてよかったと思う点をはありますか。
	<p>地域交流イベントに止まらず、具体的社会貢献によって町会活動の評価が高まった。対象(高齢者)を具体化した初めての事業となり、今後(子育て支援)の町会活動の指針となった。</p>
	問10 参加者や保護者、地域など関係者から寄せられた声を具体的に記入してください。
	<p>1、縁台を管理する店主からは、「買い物が楽しくなったと客が喜んで」と報告があった。  2、利用者からは、「外出が楽になった」との声が寄せられた。  3、子育て中の母親からは「縁台を設置した人の優しさが嬉しい」との声があった。</p>
その他	問11 自由意見
	<p>町会としては、こうした具体的社会貢献ができたことは大きな前進であった。また、催事での共催を重ねてきた商店会と「街の活性化」という大目標を同じくし、協働事業になったことも評価したい。従来の「常連客」ではない子育て世代の商店会への来場が増えて念願であった高齢者と子育て世代が絆を深める街として、新しい成長が見えてきたと実感している。</p>